

別紙

温室効果ガス削減実施状況報告書

1 事業の概要

- (1) 事業所の名称 鹿川ターミナル株式会社
- (2) 事業所の所在地 広島県江田島市能美町鹿川3-1-5
- (3) 業種 倉庫業 4711

2 計画の期間

平成 20(2008)年度を基準年度とし、平成 27 年 (2015)年度から令和1年 (2019)年度までの 5年間としている。

3 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標の達成状況

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量（ t-CO₂ ），削減率（ % ）

温室効果ガスの種類	基準年度 実排出量 (a)	目標年度 上段：見込量 (b) 下段：削減率 (c)	計画期間の実績 (上段：実排出量 (d)，下段：削減量の対基準年度比 (e))				
	平成 年度	平成 年度	平成 年 度	平成 年度	平成 年度	平成 年 度	平成 年度
エネルギー 起源 CO ₂							
非エネルギー 起源 CO ₂							
メタン							
一酸化二窒素							
フロン類							
温室効果ガス 実排出量総計							
温室効果ガス みなし排出量							
実績に対する 自己評価							

※ 削減率 (c) = ((b) - (a)) / (a) × 100 削減量の対基準年度比 (e) = ((a) - (d)) / (a) × 100

《原単位を削減目標とする場合》

原単位算定に用いた指標： タンク放熱面積（ a² ）

温室効果ガスの種類	基準年度 の実績 (a)	目標年度 上段：目標 (b) 下段：削減率 (c)	計画期間の実績 (上段：原単位実績 (d)，下段：削減量の対基準年度比 (e))				
	平成 20 年度	令和 1 年度	令和 1 年度	平成 30 年度	平成 29年 度	平成 28 年度	平成 27年 度
エネルギー 起源 CO ₂	18.89	15.13 19.9%	9.83 48.0%	9.30 50.8%	9.96 47.3%	8.71 53.9%	10.69 43.4
非エネルギー 起源 CO ₂							
メタン							
一酸化二窒素	0.0013	0.0010 0.0006 9	0.0006 9	0.00064	0.00068	0.0005 8	0.00072

		23.1%	53.1%	50.8%	47.7%	55.4%	44.6
フロン類							
温室効果ガス 総排出量	18.89	15.13	9.83	9.30	9.96	8.71	10.69
		19.9%	48.0%	50.8%	47.3%	53.9%	43.4
エネルギー消費原 単位 (原油換算 k1)	6.81	5.46	3.64	3.37	3.60	3.14	3.85
		19.8%	46.5%	50.5%	47.1%	54.0%	43.5
実績に対する 自己評価		令和1年度は平成30年度と比べて原油 t/k 1基開放となったことで、 t/k への加温が一部不要となり蒸気使用量が減少した。ボイラ運転において、空気比の調整や運転時間の調整を t/k 1に行ったことで燃焼効率が上がったが、 t/k 開放に伴い原単位算定に用いる指標（放熱面積）が下がったことで、エネルギー消費原単位は若干増加した。					

※ 削減率 (c) = ((b) - (a)) / (a) × 100 削減量の対基準年度比 (e) = ((a) - (d)) / (a) × 100

4 温室効果ガスの排出の抑制に係る具体的な取組の実施状況

○ 温室効果ガスの排出抑制に向けた取組み

	項目	削減量等	具体的な取組み
1	燃焼用の燃料使用量の削減	<p>平成 30 年度ボイラ燃料使用量 C 重油 2378KL</p> <p>令和 1 年度ボイラ燃料使用量 C 重油 2141KL</p> <p>前年比 燃料使用量が 10 %減少</p> <p>※蒸気使用量を減少させるために、必要箇所のみ通気する等、日々、管理は行なっているが、弊社のボイラ稼働率は、火力発電所の稼働率や燃料情勢に左右されるため、今後省エネに向けて更なる設備の改善を図る必要がある。</p>	<p>原重油の受払数量が減少しているため、出来るだけタクの液位を下げて管理出来るように客先へ依頼している。</p> <p>タク管理温度を客先と相談して引き下げるように努めている。</p> <p>蒸気配管にバルブを取り付けることで、不要な箇所への加温を出来るだけしないようにしている。</p> <p>2019 年度は、蒸気回収配管の保温を設置したことでボイラ効率が上昇した。</p> <p>2020 年度は、熱交換率を向上する目的として、タク加温用の蒸気配管を増設する。</p>
2			
3			
4			

○ 温室効果ガスみなし排出量の抑制に関する取組み（環境価値の活用等）

	種類	合計量
1		
2		
3		

○ その他の取組み

	項目	数値目標	具体的な取組み
1	その他	特に定めず	構内山林への植樹

2	その他	年間 20 千 KW 年間13tCO ₂ 削減	太陽光発電システム R1 年度実績 21,177 千 kW

※ 環境に配慮した実践的な取組みなどをされていれば記入してください。